

寒 鯉

谷垣満壽子

行く秋の雲しなやかに浅間山

立冬の富士黒々と暮れゆけり

背負ひたる十一月の日のぬくみ

今日を生き今日を老いたり冬夕焼

日の光入る隙間なし鴨の群

人声に似て木枯の吹きぬける

枯すすみ木々の名しかと言ひ難し

ドアノブの手ざはりハツと寒に入る

良く生きて夫と会ひたし冬の星

寒鯉は丸太の如き体持ち